

平成29年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

1 附属高等学校平野校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

(2) 所在地

大阪市平野区流町2-1-24

(3) 学級数・収容定員

9学級(1学年3学級) 収容定員360人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

359人(男子172人・女子187人)

(5) 教職員数

校長(併任)1, 校舎主任1, 副校長1, 主幹教諭1, 教諭22(うち任期付教諭2), 養護教諭1, 中学校併任教諭3, 非常勤講師11, ALT2, 事務職員5(専任1, 事務補佐員4), 用務員1

2 附属高等学校平野校舎の特徴

1学年3クラスの小規模校である特徴をいかし、自主自立の精神を基盤に生徒一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い学力の向上を目指している。平成27年度より、文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」に指定され、課題解決力等の育成を目指すカリキュラムとあわせて、グローバルリーダーに必要な資質能力の育成に取り組んでいる。

3 附属高等学校平野校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組むとともに、平野五校舎の共同研究を進める。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担う。

4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

- (1) 学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
- (2) 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

- (1) 小規模校の特徴をいかしたきめ細かな教科指導の実践と生徒の学力の向上
- (2) SGHのカリキュラムによるグローバルリーダーに必要な課題解決力、コミュニケーション力等の育成
- (3) 3年間の進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成
- (4) 生徒会活動・学校行事等へ積極的な関与・協働をととした協調性・創造性、自主・自立の精神の涵養
- (5) 平野地区他校舎との連携による五校舎共同研究の推進。教育実習の環境整備と指導充実
- (6) 学校安全への環境・体制づくりの推進と、保護者・地域との連携強化

6 附属高等学校平野校舎 平成28年度重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成
学校教育計画	(1)小規模校の特徴をいかしたきめ細かな教科指導の実践と生徒の学力の向上 (2)SGHのカリキュラムによるグローバルリーダーに必要な課題解決力・コミュニケーション力・多文化理解力等の育成(総合的な学習の時間における課題研究、教科、学校行事や海外研修、海外高校生等との交流等とおしたグローバルリーダーの育成。並びに、それらの指導法、評価法の開発と普及) (3)3年間の進路指導の充実による将来に向けた夢と志の醸成 (4)生徒の自主性・自立性を高める生徒指導

年度重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(*評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教科指導の充実と生徒の学力の向上	①教科の授業研究・授業改善を進める。 (おもに主体的・対話的な深い学び、課題解決型学習に資する教員研修・授業研究の推進)。 ②課題解決型学習の指導法開発に取り組み、成果の還元・普及をめざす。	①・全教科で取組が進められた。全生徒対象アンケートでは、「教員が授業を工夫している」が4年連続で増加し、「授業で考えをまとめたり、発表したりする機会がある」が6年連続で増加した。 ・校内の研究授業・研究協議により、教科を超えた研修を行うことができた。 ②課題解決型学習(課題研究)の実践から指導ツールを開発し、教員研修会等を通して他校にも普及させた。本校主催の教員研修に全国から64名が参加(昨年度39名)。アンケートでは100%が「研修内容が充実」、「今後も参加したい」と回答した。	①・管理職及び教員相互による授業観察を増やし、授業改善を継続する。また、各教科の授業法を相互に学び、成果を共有できるよう、研修しやすい環境づくりを進める。 ・個々の生徒の学習状況を把握するとともに、授業改善の進捗を評価するため、定期的な学習到達度評価を行い、指導をさらに充実させる。 ②・課題解決型学習の指導法については、教員研修会等の複数回開催などにより、一層の普及・還元に努める。	B	・80%以上の生徒が「授業で考えをまとめたり発表したりする機会がある」と回答するなど、課題解決型学習やグループ学習等が充実している。 ・管理職や教員間の授業観察や、授業法の教員研修等を一層活性化して実施するとよい。	A	①・教員研修と授業観察を引き続き行う。特に、教員が研修しやすい環境づくりを工夫する。 ・「教員が授業を工夫している」のアンケートへの肯定的回答をさらに向上させることを目標とする。 ・生徒の学力の伸長の測定について、教科・進路研究部・学年相互の連携を強化しながら進める。 ②指導法の研究開発・普及には、検討チームを中心に、一層、学校全体で取り組んでいく。

グローバル 人材の育成	(SGHの取組①～⑤) ①1、2年生「総合的な学習の時間」における課題研究 ②研修旅行(タイ)、海外フィールドワーク(カンボジア)、海外の高校生等との交流など ③2年生英語科授業での即興型英語ディベート ④校外での発表や海外留学 ⑤グローバル人材育成に関わる評価方法の研究開発	①・昨年度の課題を改善しつつ、計画に基づき実施した。特に1、2年では、課題研究の方法や内容のレベルが向上した(SGH運営指導委員会評価)。課題研究発表会での発表内容に関する参会者の肯定的意見は96%であった。 ・3年生の論文作成に関わる授業時間の不足が課題であった。 ・アンケート調査の分析では、課題研究によって生徒の自らの研究領域以外の分野への興味・理解も高くなっており、本校のジグソー法や領域間討議などの効果が現れた ②・「タイ研修旅行」(2年全員)では、生徒の96%が「有意義」と回答、トリアムウドムスクサ高校との交流では97%が「満足」と回答した。 ・「海外フィールドワーク」(1、2年希望者)では、97%が「次学年の生徒に薦める」、88%が「帰国後何か行動したい」と回答し、研修の目的が概ね達成できた。 ③年間11回実施し、英語で説明することへの生徒の自己評価も向上した。 ④大学等での研究発表を行う生徒や、海外留学希望者等が増加した。 ⑤グローバル人材の新たな評価指標(行動認知テスト)を試作するなど、当初計画どおり開発が進んだ。	①・1、2年では、本年度開発した学習ツールなどを活用しながら、指導法の改善に取り組む。 ・3年生の論文作成では、授業時間配分の工夫・効率化を図りながら、カリキュラムを構築していく。 ②来年度のタイ及びカンボジアでの研修の時期変更へ備え、研修目的が達成できるよう関係機関との連絡・調整、校内での指導・準備を確実に進行。 ③生徒の変容に関わる評価法を再検討し、より系統的な測定を行う。 ⑤本校の評価開発グループと大阪教育大学アセスメントグループとの連携を一層強めながら、生徒の変容測定、グローバル人材の新たな評価指標開発に取り組む。	A	①・PDCAサイクルを踏まえ改善が進んでいる。指導方法の研究成果は、他の学校にも普及させるべきである。 ・課題研究では論理性を重視し、現地の価値観を踏まえたものになるよう指導するとよい。 ②課題研究と海外の諸活動が関連し、双方により効果を与えている。 ④海外経験や、発表・交流等の経験が重要であり、今後も一層充実させてほしい。	A	①本年度の成果と課題を明確にして共有し、担当教員を中心に改善方法を検討する。 ②研修の時期変更に対して、早期に準備を進め、それぞれの目的を達成させる。 ③年間授業計画を踏まえた評価を担当者間で確認する。 ⑤大阪教育大学の関係部署とより連携し、大学の知見も積極的に参考にしていく。
進路指導の 充実による 高い志の 醸成	進路研究部及び学年との連携を強化し、各学年の進路選択へのガイダンス機能を充実させる。	・1年生、2年生の文理選択への説明・指導について進路指導係と学年が連携して行った。 ・11月の大学訪問は初めて1、2年合同で実施し、大阪大学、大阪市立大学、大阪教育大学を訪問、各学部の研究内容についてガイダンスを受講した。	・進路指導主事と学年進路指導係が中心となり、各学年でのガイダンス内容の整理を進める。	A	・進路指導に関わる情報をより詳細に保護者等に発信する方がよい。	A	・進路指導に関わる情報発信をより積極的に行う。
自主・自立 の精神の 涵養	学校行事を通し生徒の自主性や行事運営力の伸張を図る。	・生徒指導部を中心とした積極的な指導により、生徒が意欲的に各行事を運営した。 附属中学校生徒会と共同で開催するプログラムも増え、連携が深まった。	・生徒の自主的な取組が継続できるよう、生徒間の引継ぎを重視し指導していく。	A	特になし	A	・本年度の取組をベースに、各担当教員が意図的な指導を続ける。

平野五校園 共同研究の 推進	①平野地区五校園共同 研究の推進 ②来年度以降の共同研 究の方針決定	①共同研究集会をととして、五校園各校園の取組と 課題を共有し、教員間の対話・協働を進めることが できた。 ②附属学校の存在意義を踏まえ、今後の共同研究の 方針と運営に関わる五校園の意思疎通を図ること ができた。	②来年度の共同研究に向けて、研究内 容と研究方法の検討をより具体的に進 める必要があり、大阪教育大学と五校 園研究主任等の検討が必要である。	A	特になし	A	・全国の学校園への普及・還 元の視点から研究内容を検 討する。
教育実習	①教科指導、クラス担任 による実習生個々への 指導充実 ②五校園連携実習の実 施	①教科担当、クラス担当の教員からの指導のほか、 実習生間のミーティングによる指導を実施した。 ②平野五校園が連携し、実習校以外の校園種での実 習(生徒観察や指導法研修)を実施した。本年度初 めて実施したが、実習生から高い評価が得られる などの成果が得られた。	②異校種での実習では、より効果を高 めるため、今回の課題に対する検討 を行い、継続させる。	A	②平野地区及び大阪 教育大学の教育実習 の特色となるよう、検 討・改善を進めるとよ い。	A	自己点検評価「改善点」の欄と 同じ
保護者への 情報発信	ホームページ、保護者 への一斉メール連絡 (緊急連絡等)を通した 学校情報の提供に努め る。	・ホームページの「学校生活ブログ」に学校の情報を 掲載するとともに、「学校からの配布物情報」を掲載 した。 ・より見やすい WEB ページへの改訂を進めた。 ・一斉メール連絡は必要時に効率的に活用した。	・ホームページについては十分に改訂 が進まなかったため、来年度も継続し て取り組む。 ・一斉メール連絡からの情報発信を行 う。	B	・学校から保護者への 情報提供をさらにき め細かくしてほしい。	A	三者面談や学年PTA等の機 会も活用した情報発信につ いても検討する。
中学校等へ の情報発信	中学生・教育関係者等に 対する教育内容・入試情 報の発信	・学校案内の冊子を新規作成し、中学校等に配布。よ り詳細な学校情報の発信に努めた。 ・大阪府の説明会への参加等、広報の機会を増やし た。 ・学校説明会等への参加者数が増加した。	・広報委員会を中心とした情報提供の 早期実施ができず、改善の余地があ った。	A	特になし	A	自己点検評価「改善点」の欄と 同じ